

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。次に、採集した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、論文を作成していきます。同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の分野で高度な知識を身に付けることができる。【知識・理解】 ② テーマについて独自の研究を進め、社会に発信することができる。【態度・指向性】 ③ 研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用など研究倫理に反することがないような意識をもつことができる。【研究倫理】						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について 第3回 研究倫理について2 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジюме、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジюме、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：事前に渡された論文あるいは資料を読んでくる。<学習時間2時間> 事後学習：授業内で出された課題について調べてくる。<学習時間2時間> 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文50% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 口頭試問30% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 最終発表20% 【到達目標①、②、③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

履修上の注意	
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ509A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを理解したのち、語彙的音調を音響分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. アクセントと声調との違いを掴む。</p> <p>b. 語彙的音調と文法的音調との違いを掴む。</p> <p>c. 音声を機器で可視化する方法を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的実験が計画・遂行できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、修士論文の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 東京式アクセントの特徴 (1)</p> <p>03: 東京式アクセントの特徴 (2)</p> <p>04: 東京式アクセント方言の音声分析 (1)</p> <p>05: 東京式アクセント方言の音声分析 (2)</p> <p>06: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>07: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>08: アクセントと声調との違い (1)</p> <p>09: アクセントと声調との違い (2)</p> <p>10: 語声調方言の音声分析 (1)</p> <p>11: 語声調方言の音声分析 (2)</p> <p>12: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>13: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	講義で知識を付けたのち、音声分析に臨む。 音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した音声データの作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	窪蘭 晴夫 (2006)『アクセントの法則』(岩波科学ライブラリー118) 岩波書店 ISBN-13: 978-4000074582						

参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』大修館書店 窪 蘭 晴夫 (1999) 『日本語の音声』(現代言語学入門2) 岩波書店 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』大修館書店
-----	---

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ509B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを理解したのち、語彙的音調を音響分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. アクセントと声調との違いを掴む。</p> <p>b. 語彙的音調と文法的音調との違いを掴む。</p> <p>c. 音声を機器で可視化する方法を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的実験が計画・遂行できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、修士論文の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 京阪式アクセントの特徴 (1)</p> <p>03: 京阪式アクセントの特徴 (2)</p> <p>04: 京阪式アクセント方言の音声分析 (1)</p> <p>05: 京阪式アクセント方言の音声分析 (2)</p> <p>06: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>07: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>08: 垂水式アクセントの特徴 (1)</p> <p>09: 垂水式アクセントの特徴 (2)</p> <p>10: 垂水式アクセントの方言の音声分析 (1)</p> <p>11: 垂水式アクセントの方言の音声分析 (2)</p> <p>12: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>13: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	講義で知識を付けたのち、音声分析に臨む。 音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した音声データの作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	窪蘭 晴夫 (2006)『アクセントの法則』(岩波科学ライブラリー118) 岩波書店 ISBN-13: 978-4000074582						

参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』大修館書店 窪 蘭 晴夫 (1999) 『日本語の音声』(現代言語学入門2) 岩波書店 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』大修館書店
-----	---

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	MJ507A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	(1) 授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけることができる。（知識・理解(1)および(2)） (2) 課題について、分析・考察することができる。（知識・理解(2)および汎用的技能(1)）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学校文法について 3. 品詞①（用言） 4. 品詞②（体言） 5. 品詞③（付属語） 6. 語順①（形態的類型論） 7. 語順②（文法カテゴリー） 8. 語順③（数量詞） 9. 活用①（活用の種類） 10. 活用②（接辞） 11. 述語と項①（意味役割） 12. 述語と項②（格の階層性） 13. ヴォイス①（受身、使役） 14. ヴォイス②（その他） 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしていくこと。（学習時間：3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間：1時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%（到達目標(1)に関する到達度の確認）、レポート50%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	MJ507B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	(1) 授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけることができる。（知識・理解(1)および(2)） (2) 課題について、分析・考察することができる。（知識・理解(2)および汎用的技能(1)）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 授受表現 3. テンス 4. アスペクト①（テイル形） 5. アスペクト②（方言のアスペクト） 6. ムード①（対事的） 7. ムード②（対人的） 8. 連体修飾 9. 副詞と連用修飾 10. 複文 11. 主語と主題 12. 造語法 13. 指示詞 14. 語用論 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしてもらうこと。（学習時間180分） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%（到達目標(1)に関する到達度の確認）、レポート50%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ512A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語を母語としない者の視点に立って自ら設定した課題について、独自の知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 SLA研究とはどんな学問か 第3回 近年のSLA研究 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの方法 第6回 SLA研究の種類 第7回 先行文献の集め方 第8回 先行文献の読み方 第9回 研究テーマの設定の方法 第10回 リサーチプランの作成 第11回 リサーチプランの構成 第12回 研究テーマの発表1 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。＜2時間＞ 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。＜2時間＞						
授業方法	講義＋演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を含む						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ512B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語を母語としない者の視点に立って自ら設定した課題について、独自の知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インTRODakション 第2回 研究の背景の書き方 第3回 研究の目的・研究課題・仮説 第4回 研究の方法 第5回 研究データの集め方1 反応時間データ 第6回 研究データの集め方2 コーパスデータ 第7回 実験実施上の留意点 第8回 データ集計の方法1 第9回 データ集計の方法2 データ入力 第10回 データ集計の方法3 エクセルを使った集計 第11回 結果から結論・考察の導き方 第12回 研究テーマの発表1 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。＜2時間＞ 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。＜2時間＞						
授業方法	講義＋演習（ディスカッション・プレゼンテーションを含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表：授業参加・積極性：60% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ504A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本近代の詩作品を読む						
授業の概要	近代詩を読むことにより、日本文学の全貌に迫る。						
到達目標	日本文学、日本文化、および、芸術各方面について、先行研究を的確に把握した上で独創的な知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本近代文学 第3回 日本近代詩 第4回 島崎藤村 第5回 高村光太郎 第6回 山村暮鳥 第7回 北原白秋 第8回 萩原朔太郎 第9回 千家元麿 第10回 室生犀星 第11回 宮沢賢治 第12回 三好達治 第13回 草野心平 第14回 まど・みちお 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文学全般に目配りし、様々な文献を精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	演習形式。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『新潮ことばの扉 教科書で出会った名詩一〇〇』 新潮文庫 し-24-1 ISBN 978-4-10-127451-5						
参考書	適宜、指定する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ504B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本近代の詩作品を読む						
授業の概要	近代詩を読むことにより、日本文学の全貌に迫る。						
到達目標	日本文学、日本文化、および、芸術各方面について、先行研究を的確に把握した上で独創的な知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 中原中也 第3回 立原道造 第4回 国木田独步 第5回 山之口獏 第6回 西脇順三郎 第7回 鮎川信夫 第8回 阪田寛夫 第9回 黒田三郎 第10回 佐藤春夫 第11回 金子みすず 第12回 井伏鱒二 第13回 茨木のり子 第14回 谷川俊太郎 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文学全般に目配りし、様々な文献を精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	演習形式。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『新潮ことばの扉 教科書で出会った名詩一〇〇』 新潮文庫 し-24-1 ISBN 978-4-10-127451-5						
参考書	適宜、指示。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学史の研究						
授業の概要	我が国の古典文学の基盤である和歌文学の史的展開について講義する。記紀歌謡や『万葉集』に始まり、『古今集』以下の勅撰和歌集の撰集、種々の私家集の編纂など、我が国の韻文の歴史をを跡付ける。特に平安時代に興隆する屏風歌や歌会、歌合に注目し、さらに、平安時代後期から鎌倉時代の歌論の展開を通して、和歌文学の実態と理論の歴史について考察する。						
到達目標	(1)和歌文学の成立や享受の様相を理解、説明できる。【知識・理解】 (2)古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 記紀歌謡について 第2回 万葉集について 第3回 国風暗黒時代の和歌と歌会について 第4回 古今和歌集について 第5回 屏風歌について 第6回 歌合について 第7回 私家集について 第8回 後撰和歌集と拾遺和歌集について 第9回 平安後期の歌学と勅撰和歌集について 第10回 新古今和歌集について 第11回 二条・京極・冷泉家の分立について 第12回 鎌倉時代の勅撰和歌集について 第13回 室町時代の勅撰和歌集について 第14回 古今伝授について 第15回 連歌と俳諧について						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱う和歌文学に関する事柄について調べて、学習する。(学習時間：2時間) 授業後学習：和歌文学史の流れを整理し、具体的な作品にも目を通す。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	レポート 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』(文英堂)978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学史の研究						
授業の概要	物語文学の史的展開について講義する。 『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめとし、 日本古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』などの特質を論じるのは勿論、 歴史物語や擬古物語についても具体的に論じ、 それらの物語が生み出される歴史的背景や物語の生成のあり方について考察する。						
到達目標	(1) 物語文学の成立や享受の様相を理解、説明できる。【知識・理解】 (2) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学史の概観 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について (1) 第5回 伊勢物語について (2) 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について (1) 第8回 源氏物語について (2) 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子と風葉和歌集における物語への視座について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱う和歌文学に関する事柄について調べて、学習する。(学習時間：2時間) 授業後学習：物語文学史の流れを整理し、具体的な作品にも目を通す。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	レポート 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』(文英堂) 978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義ⅠA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ501A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に閲覧し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	(1) 調査した書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。【知識・理解】 (2) 調査した書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。【知識・理解】 (3) 書誌情報を説明できる。【汎用的技能】 (4) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 図書館所蔵の貴重書について 第2回 『絵入源氏物語』の調査 第3回 『絵入源氏物語』についての考察 第4回 『絵入源氏物語』についてのまとめ 第5回 3種の『源氏物語かるた』の調査 第6回 『源氏物語かるた』①についての考察 第7回 『源氏物語かるた』②についての考察 第8回 『源氏物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『源氏物語かるた』についてのまとめ 第10回 『豆本源氏物語』の調査 第11回 『豆本源氏物語』についての考察 第12回 『豆本源氏物語』についてのまとめ 第13回 『絵入源氏小鏡』の調査 第14回 『絵入源氏小鏡』についての考察 第15回 『絵入源氏小鏡』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。（2時間） 事後学習：『源氏物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。 調査した作品の書誌情報を整理する。（2時間）						
授業方法	演習（調査し、整理したうえで、発表する）						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 演習の取り組み方 10% 到達目標（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	特になし。						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義ⅡB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ501B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に見学し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	(1) 調査した書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。【知識・理解】 (2) 調査した書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。【知識・理解】 (3) 書誌情報を説明できる。【汎用的技能】 (4) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の絵巻・絵本資料についての講義 第2回 奈良絵本『伊勢物語』の調査 第3回 奈良絵本『伊勢物語』についての考察 第4回 奈良絵本『伊勢物語』についてのまとめ 第5回 3種の『伊勢物語かるた』の調査 第6回 『伊勢物語かるた』①についての考察 第7回 『伊勢物語かるた』②についての考察 第8回 『伊勢物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『伊勢物語かるた』についてのまとめ 第10回 『伊勢物語』版本の調査 第11回 『伊勢物語』版本についての考察 第12回 『伊勢物語』版本についてのまとめ 第13回 『伊勢物語』古注釈書の調査 第14回 『伊勢物語』古注釈書についての考察 第15回 『伊勢物語』古注釈書についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。（2時間） 事後学習：『伊勢物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。 調査した作品の書誌情報を整理する。（2時間）						
授業方法	演習（調査し、整理したうえで、発表する）						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 演習の取り組み方 10% 到達目標（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	特になし。						
参考書	適宜、提示する。						